

生き物たちが危ない

大量絶滅時代

地球の歴史の中で大量絶滅時代というのが過去5回ほどあった。最近の大量絶滅は恐竜の絶滅だ。そして、今、第6の絶滅時代に私たちはいる。第6の大量絶滅には、これまでの大量絶滅とは違う特徴が2つある。

まず1つ目は、絶滅を引き起こした原因だ。これまでの原因は、隕石の衝突や火山の大爆発などの自然災害だったが、今回は、私たち人間がもたらしているのだ。

2つ目は、絶滅スピードの速さだ。今、1年間に4万種の生き物が絶滅しており、恐竜絶滅時代の1千倍の速さといわれている。地球上の4分の1の生き物が絶滅の危機にあるらしい。

今、38億年もの長い時間をかけてつないできた生命が、次々この地球上から失われようとしている。第6の大量絶滅は、地球史カレンダーでは12月31日に登場したひとつの生物種に過ぎない人間が、大みそかの最後の1秒で引き起こした問題なのだ。



過去の大量絶滅

現代の大量絶滅

恐竜の大量絶滅時代には、生き物が環境の変化に適応し進化する時間的ゆとりがあった。だから人間の先祖であるほ乳類が生きながらえた。今の大量絶滅は、変化が急激すぎて生き物は進化する時間もなく、次々と絶滅に追いやられているんじゃ。



博士の物知りコーナー 4



絶滅のドミノ倒し

ひとつの生き物の絶滅は、その生き物の消滅だけではすまない。例えばカエルが減ると、ヘビが減り、タカも減ってしまう。生き物たちは互いにつながっているから、ある生き物がいなくなれば、必ず他の生き物にも影響する。ひとつの絶滅が他の絶滅を引き起こすこともあるんじゃ。



カエルが減る

カエルをエサとするヘビが減る

ヘビをエサとするタカが減る

このままでは人間も無関係ではられない ~イースター島の悲劇~

自然は無敵ではない。自然の破壊がこのまま進むと、人間にも必ずしっぺ返しがかかるということを、過去に滅びた多くの文明が教えてくれる。

モアイ像で有名なイースター島。先住民がイースター島に住み始めたのは5世紀ごろ、島



は全体が豊かな森におおわれていた。しかし、18世紀に西洋人が訪れた時、島の木々はほぼ完全に切り倒されていた。先住民がまだ住んでいたが、巨石を使った、あのモアイ像を作る技術も文化も失われていた。木がないため、船を造ることができず、漁をすることも島から離れることもできない。食料をめぐって争いが起こり人口は減り続けていった。

イースター島の悲劇は教えてくれる、ひとたび自然の利用方法を誤り豊かな生物多様性を損なえば、同時に生活も文化も荒れ果ててしまい、人々は悲さんで厳しい運命をたどるということ。

自然を根こそぎ利用し尽くすのではなく、自然の回復力を超えない範囲で、末永く利用できるように、自然と付き合い合っていくことが大切なんだね。

